

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470300993		
法人名	有限会社 ヘルパーステーションよろこび		
事業所名	グループホームほたる		
所在地	三重県鈴鹿市池田町1335番地の7		
自己評価作成日	令和5年11月23日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaipokensaku_mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&lyosyoCd=2470300993-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事は1日3食とも手作り。材料は地場野菜を中心に肉や魚もバランスよく摂取できるよう献立を考えている。利用者からの評判も良いです。家族の状況を把握し、衣類の買い物や受診介助、面会時の送迎などニーズに答え柔軟な対応をしている。利用者の様子は介護支援経過で、施設の行事、活動の様子は、ほたる通信で毎月お知らせしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2003年10月に開設されてから丸20年になる事業所は、昔ながらの住宅地の中にありながら周りが工場、マンション、新興住宅が増えてきている。新型コロナも5類に移行し、家族との面会方法やボランティアの受け入れ、地域の防災訓練参加など地域との交流が戻りつつある中、管理者・職員は利用者が笑顔で毎日を過ごしてもらう工夫や外出に代わるものの工夫を考えながら室内レクリエーション等でストレスの発散となる支援に努めている。自慢の食事は3食とも職員の手作りで、食べる楽しみを味わっている。職員は10年以上の勤務者が多く、自分の親のように寄り添って支援し、利用者の出来ることはしてもらうなど利用者一人ひとりを尊重し、その人らしい生活の支援が出来るように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念はわかりやすく、職員も理解して頂いている。職員は理念を踏まえ介護を行っている。	理念「地域の中でその人らしい生き方、ともに歩き共に生きる」を廊下に掲示し共有している。職員は理念に沿ったケアを心掛け、利用者が地域の中で安心・安全の暮らしが続けられるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまでではないが、運営推進会議で地域の防災方針を聞いたり、地区の防災訓練に参加する予定がある。また一ノ宮地区の行方不明者捜索の訓練に管理者も参加し、地域住民等と話をさせて頂いた。	新型コロナが収まりつつあり、少しではあるがボランティアの訪問を増やしている。地域との交流も防災訓練に参加するなど良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去にボランティア受け入れ時に近隣住民を招き、共に演奏会などを聞いたり歌ったりして認知症の人の理解をして頂くとしていたがコロナ過にてなくなっている。ボランティアの受け入れは再開したが、まだ地域住民に参加して頂くまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて災害発生時のアクションカードの内容を確認して頂いた。また地域での防災の取り組みも聞き、地域の防災訓練にも参加する予定である。	コロナ禍の影響で長い間、書面による報告を行うのみであったが今年6月より対面開催をした。地域包括支援センター、自治会長、老人会会長、民生委員、家族代表等の参加を得て開催し、課題（防災など）検討に対しての意見交換が多くサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鈴鹿亀山地区広域連合の担当者とは、年度改定や加算の要件など不明な点が出てきた都度電話や窓口にて赴いて相談をさせて頂いている。	市役所・広域連合へは書類の提出・相談・連絡などに出向いている。運営推進会議に地域包括支援センター職員や介護相談員の参加を通して日頃から協力関係を築いている。また生活保護受給者の受け入れもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員は社内研修により身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を把握している。玄関の施錠については、過去徘徊により行方不明となったことがあるため、廊下と玄関の間の内扉に施錠をしている。	3か月毎に「身体拘束適正化委員会」を開催し、身体拘束の弊害について話し合っている。職員ミーティングでも課題に取り上げ、身体拘束や言葉による拘束について事例を挙げながら研修会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は身体拘束の研修時に虐待防止法についても研修をしている。また来年度より虐待の防止が義務化されるため、指針等の作成を行う予定である。 (現在は未作成)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者は過去に権利擁護の研修を受けて理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を締結する際、丁寧に説明し利用者や家族様に理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からは、面会時や介護計画の説明時に要望等あればお聞きする。また、介護相談員に来ていただき利用者とは対談をしていただいている。	新型コロナが5類に移行し家族との面会も窓越しから玄関内になり訪問者が少し増えた。家族の意見・要望などは面会時・受診時・介護計画の更新時に聞き、職員間で共有している。毎月発行の「ほたる通信」で生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングの際に、職員から意見・提案を聞けるようにしている。また、代表者は普段から職員と会話をし、相談されやすくなるようにしている。	管理者は職員ミーティングや日常の支援中でも職員より意見や提案を聞く機会を設け、出来る限り取り入れている。職員希望の勤務表や室内レクリエーションのアイデアが大いに活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日について、毎月職員の休みたい日を確認し、できるだけ休みがとれるようにシフト調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については掲示をしている。施設内研修としては身体拘束の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に入会し、会合等に参加する際に他の施設と交流を行うようにしていたが、新型コロナにより参加を辞退している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とは面談で会い、本人の情報はケアマネや介護サービス事業所からの情報で入居して安心して過ごせるようや対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様からお話を伺い、安心して頂けるよう努めている。入居後も家族様は心配してみえるので、本人の様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の今の状態の情報をしっかり集め、まず必要とする支援ができるよう対応しているが、場所が変わると本人にも変化があり、変更する必要がある場合が多々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や縫物など、以前の職業で得意な利用者がみえる。出来る事は手伝ってもらい、日々支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事は長く生活を共にしてきた家族が一番理解している。分からない事は家族に伺い、本人が安心して過ごせるように良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族が面会に来られた時も駅までの送迎をしている。親戚や友人が面会に来られた際もゆっくりお話しできる場を提供している。	利用者の入居年数により馴染みの人との関係継続は難しいが、新型コロナが5類に移行し家族・知人の面会も増え利用者が喜んでいる。居室の写真を見ながら職員は回想法の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりはよく観察し、仲のいい利用者同士が同じテーブルになるよう考え、良好な関係が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからの事は気になるが、個人情報で何うのもためらう。家族からは知り合いがグループホームに入居希望していると相談された事はある。契約終了した家族が今でも折り紙教室に来て下さっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望は、毎日の生活の中での会話で理解できている。計画書更新の際には希望を伺っている。	入居時に一人ひとりの想いをくみ取って希望や趣味などを聞いているが、入居後も一日を通して支援時に利用者に寄り添い本音を聞き取り連絡ノートで共有している。意思疎通の難しい人は利用者本位の暮らしが出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に家族やケアマネからの情報で把握する事になっている。馴染みの事や得意な事が分かると施設での役割を考える際に役立つ。本人との話題作りにもなる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見ていると状態の変化はよく分かる。今日は出来なくても翌日はできたり、日によっても違う。職員全員で見ている、変化があればケアマネに報告がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングの際モニタリングをしている。その他毎日の生活の中で気づきがあればケアマネに報告があり、職員の意見も踏まえて介護計画を作成している。	利用者個々の介護記録を基に毎月の職員会議で全利用者の状態を話し合い、モニタリングと評価を行い現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があれば、医師・家族の意向も踏まえ計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録された介護記録を読んで状態の変化があれば、ミーティングの際に皆で相談し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの本人や家族の状況は把握している。高齢の夫が妻の入居の準備ができなかった際には入居の準備をしたり、利用者の高齢の家族が遠方から面会に見えた際は駅までの送迎をしたり柔軟なサービスをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は市民館のいきいき講座やそば打ち体験に参加していたが、コロナで中止になったり、会場が2階で階段が上がれなくなったりで参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診介助する中で、かかりつけ医と馴染みになる。状態の変化があれば電話で相談し、受診するよう言われたらお連れしている。	利用者の半数がかかりつけ医で半数が協力医である。通院および他科受診は基本、家族対応になっているが職員の代行支援もある。受診結果はその都度家族に報告している。夜間・緊急時は主治医の指示の下、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問時に利用者の状態を報告している。変化があれば電話相談し適切なタイミングで受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを渡している。分からない事があれば、担当看護師や、病院相談員から問い合わせがあるので情報提供している。退院の際のカンファレンスには家族の同意があれば参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合、グループホームで出来る事、出来ない事の説明をしている。状態の悪化でグループホームでは難しくなってきた時には家族と相談し、適当な施設の提案をしている。	入居時に事業所として看取りはしない方針の説明をしているが、家族の強い要望で、家族と医療の連携を取りながら2名の看取りをした。職員も実践しながら研修し、個々の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去に消防署の延命講習をうけているが、定期的には行っていない。今年、池田町の消防訓練を行うため、管理者は参加し他の職員にも可能な場合参加を呼びかける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。災害発生時に避難をするためのアクションカードを作成し、職員ミーティングの時に説明し、改善など話し合った。	年2回、火災・水害・地震など総合避難訓練を実施した。地域（町民会館）の防災訓練に参加し応急手当の実技訓練を受けた。地域の消火器は100本の予定で事業所として心強く安心である。台風時の養生テープ・シートなども確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの研修で、よかれと思ってやっている事も不適切になると学んだ。利用者の人格を傷つけないようより良い対応を考えている。	排泄時や入浴時、居室の出入りには羞恥心やプライバシーを損なわないよう心掛けている。日常の何気ない一言で利用者を傷つける事のないように職員間で話し合い、接遇マナーを研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や話は伺い、意味不明で理解しにくい時もあるが、行事への参加などは本人に決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での1日の流れは一応決まっているが、本人が眠くなったり、部屋でゆっくりしたい時は自由にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がその日着たい洋服を着てもらおうが、季節に合わない時はアドバイスしている。化粧水や乳液もなくなったら家族に連絡して持ってきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえやお茶パック作りなど手伝ってもらっている。トレーを並べて食事前の準備したり、洗ったトレーを拭いてもらうなど色々手伝ってもらっている	開設当初から3食とも職員の手作りで、季節の食材を使った家庭料理を提供している。利用者も調理前の下ごしらえなど出来る範囲内で手伝い、食べる楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	7分づきご飯に野菜や肉、魚で栄養バランスよく献立を作っている。体重の変化を見ながら食事量を考え、咀嚼や嚥下の状態をみながら食形態も替えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、自分では磨き残しが多い利用者は仕上げ磨きしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て早めに誘導すると、排泄しない。遅いとすでに失禁。できるだけトイレでと思うが難しい。今は放尿がされる方が、トイレでできるよう支援している。	一人ひとりの力を大切にして出来るだけトイレでの排泄を支援している。トイレ誘導時、言葉の理解が困難な利用者もいるが、紙パンツが濡れる前にトイレ誘導するよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で便が出ていない事がわかると、便秘薬追加して、便秘にならないよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	寒くなってきて暖かいお風呂は楽しみな様子であるが。毎回入浴拒否の方がみえるので上手く誘導するようにしている。一人ひとりの希望時間を伺って入浴はしていない。	週3回、午後からの入浴を基本としている。利用者の大半は職員とゆっくり対話出来る入浴が好きである。入浴剤やゆずを入れて香りや季節感を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った寝具で定期的に洗濯し清潔に保っている。居室の室温も見ながら安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬している薬は、職員がいつでも確認できるようファイルに入れてあり、理解している。変更があれば連絡ノートなどで知らせ周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の出来る事で役割を持ってもらっている。好きな脳トレプリントもいつでもできるよう準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって出かける支援はできていないが、季節の行事で、梅、桜、彼岸花、コスモスのお花見など、できるだけ外出する機会ができるよう考えている。	新型コロナや毎日のお天気にもよるが、食堂兼リビングや居室にいることが多く、日常的に外出はしていない。季節の行事として花見に出かけティータイムを楽しむ工夫をしている。	利用者が外出したいと言う気持ちを大切に管理・職員の提案や利用者の要望も取り入れ、外出の機会を増やし、気分転換を図られることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持って頂いていない。必要な物があれば共に買い物に行き、費用は請求書に上げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われたら、メールで連絡し都合のいい時に電話をもらうようにしている。手紙は預かり封筒に入れ投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度には注意している。月に1度の折り紙教室では季節に応じた作品作りをしてもらい、お雛様やクリスマスツリーを飾る。職員が花を持ち寄り季節を感じてもらえるよう工夫している	新型コロナ・インフルエンザ予防に室温・温度の調節や、こまめな喚起を行い、利用者の健康管理や感染症対策に努めている。壁には四季を通じて折り紙教室で作成した作品を飾り、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者通しが同じテーブルになり会話を楽しめるよう配慮している。一人でゆっくりしたい時は居室で休んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使っていた布団や洋服を持ってきてもらい、自宅ではないものの馴染みの物に囲まれ居心地よく過ごせるよう工夫している。	事業所としてエアコン・ラック棚・ベットが設置されている他は、自宅から使い慣れた家具などが持ち込まれている。居室入り口に暖簾をかけプライバシーにも配慮し、ゆっくりと過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで段差がなく、手すりもついているので歩きやすい。補助具を使用しながらでも出来るだけ自分で歩いて頂いている。		